

骨折・捻挫・感電の処置法を知っていますか？

骨 折

患部が動かないように、副木等で骨折部位と上下関節を固定し（患者と副木の間には布綿等をあてる）、医師の処置を受ける。元に戻そうとしたりしないこと。外傷がある場合は、骨折部を動かさぬよう注意して傷の手当てを先にする（感染を起こしやすい）。患者を運ぶときは骨折部が動かないように細心の注意をはらうこと。肋骨骨折の場合は深呼吸時に痛みが大きいので、布団などにもたれる等の座位をとる方が楽である。胸に穴が開いている場合、清潔なガーゼで蓋をする。脊髄、骨盤のときは、骨折部を動かさぬようにして救急車を呼ぶ。鎖骨の場合は三角巾で前腕を首につるし、他の三角巾で上腕と胸を固定すること。

捻挫・脱臼

冷湿布をし、副木、弾力包帯等で患部を固定すること。腫れがある場合は、原則として医師（専門医（外科））にかかること。

感 電

スイッチや電源を切ってすぐ電流を止めること。止められないときは、救助者が感電しないよう、乾いた棒、布、不良導体（電気を伝える度合いがきわめて小さい）の手袋等を用いて感電から引き離すようにすること。呼吸停止あるいは呼吸が浅いときは、救命救護処置をしながら救急車を呼ぶこと。傷の処置は、火傷の時と同じで、保温、安静にすること。

骨折・捻挫は受傷部位を動かすと悪化するので可能な限り動かさないこと。